

第二 戸市 総合計画

平成28年度～平成37年度

挑戦します！
次代へ^{つむ}紡ぐふるさとづくり



みんなの夢 — 30年後の未来像 —



人が輝き 未来をひらくまち にのへ

「魅力を活かし様々なことに挑戦しているまち」
「誇りや生きがいを感じて心豊かに暮らしているまち」
「安心して住んでよかったと感じているまち」

これは、総合計画の策定にあたって、
皆さんから出された30年後の二戸市のイメージです。

話し合いをするなかで、
「人口減少は避けられない」
「まちの魅力や活力もなくなっていくかもしれない」
「市のお金も少なくなって施設も
整備されないかもしれない」
といった気持ちを抱いていた方もいました。
しかし、多くの人が自分の子どもや孫に、
ここに暮らす誇りを感じ、
未来に希望の持てる「にのへ」を
伝えたいと考えていました。

この、「みんなの夢」は、
そんな皆さんの想いを
未来像として表現したものです。
まちは、人が創り、育て、伝えていきます。
その「人」が輝き、
二戸市の魅力が国内外に「開かれ」
また、未来を「拓いて」いく。
このようなまちを次の世代に伝えるために、
人口減少という大きな課題に、
力を合わせて挑戦していきましょう。



わんこダンスを踊る皆さん。二戸演劇協会 LOVE KIDS(アイキッズ)①、ちゃいんどスクール②、まつのまるこども園③、二戸市剣道スポーツ少年団④、岩手県立福岡高等学校吹奏楽部3年生有志⑤

ごあいさつ

二戸市は、平成28年1月1日で二戸市と浄法寺町の合併から10年の節目を迎えました。

この間、学校給食センターや浄法寺小学校、福岡中学校などの教育施設、あるいは、二戸消防署や浄法寺分署などの防災施設の整備を行うとともに、土地区画整理事業や浄法寺大橋など、これからのまちづくりの基盤となる整備に取り組んできました。

また、折爪岳や稲庭岳、天台寺や九戸城跡など、特色ある自然や歴史を活かした交流が進み、住民の一体感も生まれはじめています。

一方、国立社会保障・人口問題研究所や日本創成会議が発表した将来推計人口が示すように、国全体で人口が減少する時代を迎え、東京圏を除くほとんどの市町村で人口減少が進み、少子高齢化にとどまらず、地方消滅のおそれもあるとの提言も出されています。

二戸市の人口も、近年は毎年400人ほど減っており、商店の閉店や地域の防災力低下など地域経済や住民活動に影響を与えていることから、これからのまちづくりを考えるうえで、人口減少が一番大きな課題となっています。

この総合計画の策定にあたっては、将来のまちづくりに向けてたくさんの意見や想いを伺い、30年後の未来像として「みんなの夢」を掲げ、「しごと」、「子育て」、「暮らし」、「まち」の4本の柱を中心にまちづくりを進めることとしています。

人口減少を正面から捉え、先人が培ったこの「ふるさと」を次の世代に引き継ぐために、誇りを持ち安心して暮らせるまちづくりに挑戦することが、元気で魅力的なまちづくりを進める原動力になります。

次は、この計画を実現しなければなりません。

ここに暮らす皆さんの主体的な活動と力を合わせ、人口減少に負けない、暮らしやすいまちの実現に向けて取り組んで参ります。

平成28年1月

二戸市長 藤原 淳



序論

総合計画策定の背景 6

総合計画策定の目的 8

総合計画の特徴 8

総合計画の構成と期間 9

基本構想

基本構想の体系イメージ 12

みんなの目標 14

総合計画の4本の柱 16

人口減少に立ち向かう2つの視点 18

前期基本計画

総合計画の体系 20

政策1 しごと・産業・交流 23

政策2 子ども・若者・女性 33

政策3 暮らし・安心・健康 41

政策を支える土台・原動力 55

資料編

二戸市人口ビジョンの概要 70

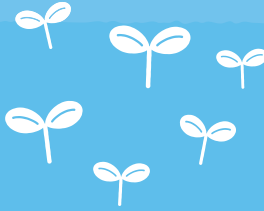
二戸市まち・ひと・しごと総合戦略の概要 72

二戸市総合計画審議会条例 74

二戸市総合計画審議会委員 75

第二次二戸市総合計画の主な策定経緯 76

序論

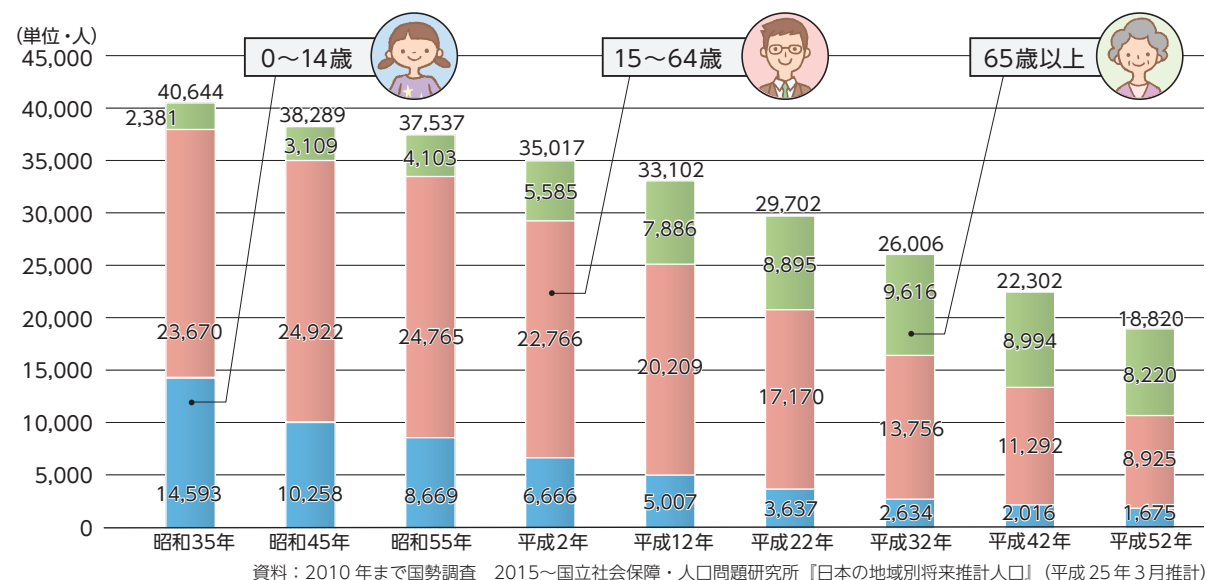


総合計画策定の背景

人口の推移

本市の人口は、今後も減少が続くことが見込まれ、平成22年に29,702人だった人口が、平成52年には18,820人になるという推計も出されています。

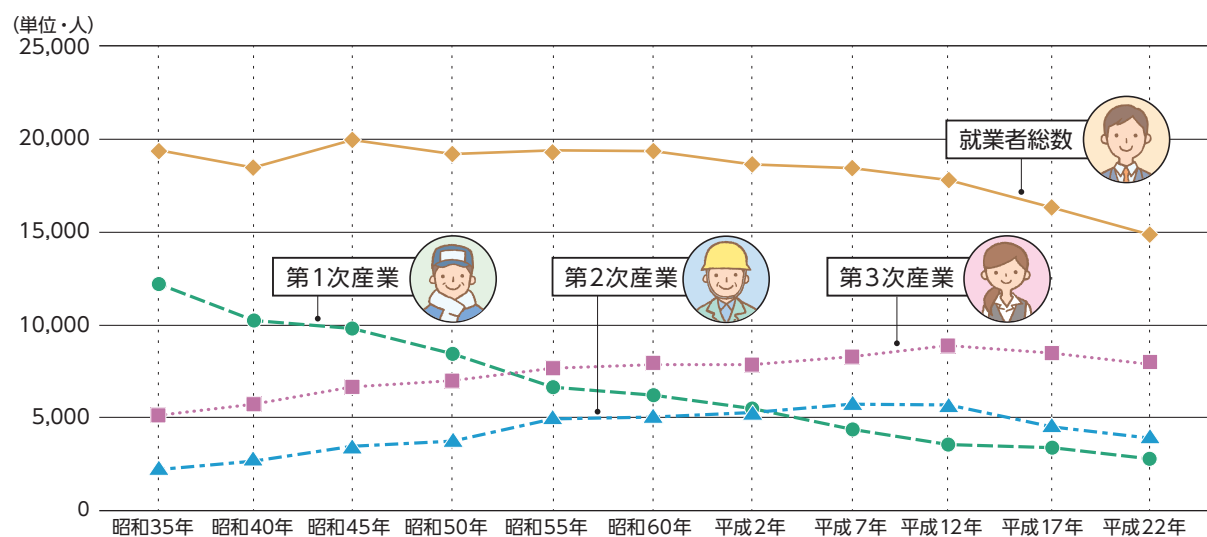
この間、少子高齢化が進む一方、平成32年以降は高齢者も減少する時代に入ることが予想されます。



産業別就業者数の推移

本市の産業別就業人口を見ると、就業人口全体で減少が続いており、産業別では、第1次産業の減少が非常に大きくなっています。

第2次産業就業者数は、平成7年をピークに、第3次産業就業者数も平成12年をピークに減少に転じています。



魅力ある地域資源

本市は、中山間地域の気候や地形を生かし、魅力ある特産物が多く生産されています。

また、先人から引き継がれてきた文化遺産や伝統芸能など、長い歴史と伝統がまちの中に深く溶け込んでいます。

このような地域資源に磨きをかけながら、「ヒト」と「モノ」の交流を促進し、活力あるまちづくりに取り組む必要があります。

浄法寺漆

「浄法寺漆」は、国内生産量の約7割を占め、鹿苑寺金閣、日光東照宮、中尊寺金色堂など日本を代表する文化財建造物の修復にも使用されています。

また、浄法寺漆を塗り重ねて丁寧に作られる浄法寺塗は、その使い心地から多くの人から愛されています。



フルーツ

寒暖の差が大きく降水量が少ないなど、果樹栽培に適した条件が整っており、さくらんぼの「夏恋」、ブルーベリーの「カシオペアブルー」、りんごの「冬恋」など全国に誇れるフルーツが多くあります。



三大ミート

広々とした高原で自然栽培の牧草を食べて育った「いわて短角和牛」、飼料にこだわって飼育された「折爪三元豚・佐助」、国内でも有数の生産量を誇る「プロイラー」の三大ミートが揃う貴重な地域です。



文化遺産

豊臣秀吉天下統一の最後の合戦場となった国指定史跡九戸城跡、東北の仏教文化の中心地として千年以上の歴史を刻む八葉山天台寺など、長い歴史の中で先人から引き継がれてきた文化遺産が多く残っています。



総合計画策定の目的

人口減少が一層進行する中で、市民が主体となり、元気で生きがいを持って暮らせるまちづくりを進めるため、およそ30年後の未来像を描き、その実現に向け、平成28年度を初年度とし10年間の行政運営の基本的方向性や政策を示す二戸市総合計画を策定します。

総合計画の特徴

今、私たちの生活や社会を取り巻く環境は大きく変わる節目に差しかかっています。

企業活動のグローバル化やTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)合意など、世界経済の動向が地方にも大きな影響を与え、急速に進む人口減少のなか、私たちは家庭や地域、職場でさまざまな活動を行いながら暮らしています。

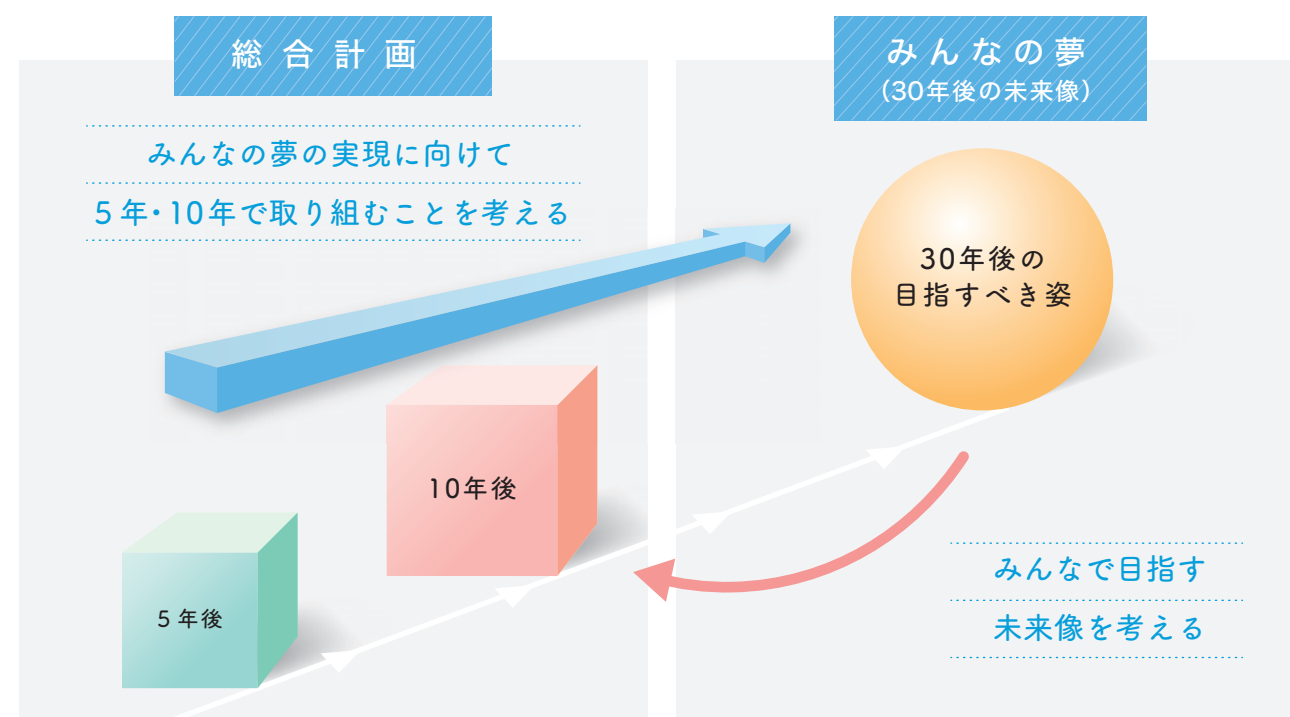
このような社会環境の変化に対応し、安心して暮らせるまちを築くためには、長い期間で将来を見据えたまちづくりを進める必要があります。

そのため30年後を目標に、次の世代を担う子どもたちへ、私たちがどのようなまちをつくり、引き継いでいくことができるかを多くの皆さんと話し合いました。

この総合計画では、皆さんから出された意見をもとに、本市が目指すべき姿を「みんなの夢」として掲げています。

そして、この夢を叶えるため、これから5年・10年で取り組むべきことを、体系的に取りまとめ総合計画としています。

計画づくりのイメージ



総合計画の構成と期間

基本構想

基本理念、まちづくりの方向性、政策を定めるもので、計画期間は平成28年度を初年度とし、平成37年度までの10年間とします。

基本計画

基本構想を実現するため政策ごとに施策の方向を定めるもので、平成28年度を初年度とし、平成32年度までの5年間で前期基本計画の期間とします。

アクションプラン

基本計画に掲げる政策を進めるための施策や事業の工程表と目標指標を示すものです。

実施計画

基本計画やアクションプランで示した施策の方向に従って、具体的な事業の内容を明らかにするものです。社会情勢や経済の動向を踏まえ、一定期間ごとに進捗状況を管理し、調整・修正を加えていきます。

総合計画全体のイメージ

